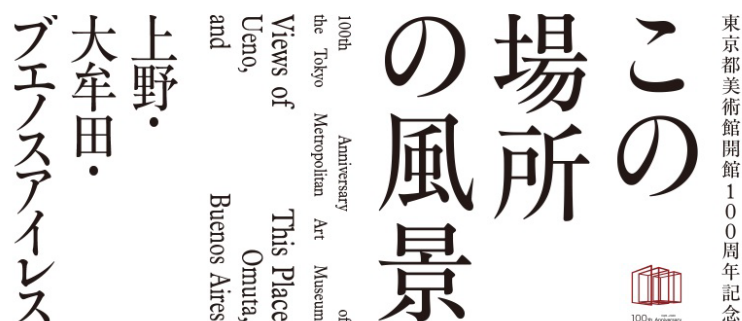


「東京都美術館開館 100 周年記念 この場所の風景—上野・大牟田・ブエノスアイレス」
2026年7月23日より東京都美術館で開催！



2026年7月23日[木]—10月7日[水]
東京都美術館 ギャラリーA・B・C

100年という時間を、異なる3つの場所の創作活動をとおして展望する展覧会。
<会期：2026年7月23日(木)～10月7日(水)>

東京都美術館は、今から100年前の1926年、日本初の公立美術館として東京・上野公園内に開かれました（※開館時の名称は「東京府美術館」）。本展は、この「100年」という時間を、異なる3つの場所でそれぞれに続けられた創作活動をとおして、展望していきます。

第一部「上野—東京都美術館の100年」では、上野に誕生した美術館のはじまりからこれまでを、そこで開催されたさまざまな展覧会やその周辺に広がる風景から振り返ります。

第二部「大牟田—江上茂雄の100年」では、九州の炭鉱の町・大牟田そして荒尾で生涯をすごし、その場所の風景を描き続けた江上茂雄（1912-2014）の画業をみつめます。

第三部「ブエノスアイレス—《百日草の庭》をめぐる100年」では、当館が開館した1926年に描かれ、最初の収蔵品となった絵画作品《百日草の庭》をめぐる、戦前にアルゼンチンに渡ったある日本人移民とその家族たちの「絵」と「花」の物語をたどります。



近代以降、あまたの博覧会、展覧会の開催地となり、さまざまな文化的施設がつくられた上野という場所は、日本近現代美術史の中心地とみなされてきました。本展では、多種多様なひとびとが集った上野そして東京都美術館の100年と、そこから遠くはなれた土地で、個人の膨大な熱量によって繰り広げられた創作の営みとを並行してたどることで、「中央／周縁」といった枠組みをのりこえ、表現することの根源的な意味を浮かび上がらせていきます。

ひとびとの「より良い生活」を支える場所として、美術館はなにができるのか。3つの場所の風景と向き合いながら、次の100年について考えていきます。

◆第一部 上野—東京都美術館の100年

○みどころ さまざまな資料から振り返る「上野」の100年

絵画、版画、写真、東京都美術館アーカイブズ資料などのさまざまな記録により、東京都（府）美術館の誕生から戦中・戦後の状況、1975年の新館開館以降の活動を、同時期の上野の風景とともに概観します。



藤岡鉄太郎《百日草の庭》1926年
東京都現代美術館蔵



児玉房子《上野公園（「東京1970-1977」より）》
1977年 東京都写真美術館蔵



奈良原一高《不忍池（「ポケット東京」より）》
1993-1996年 東京都写真美術館蔵

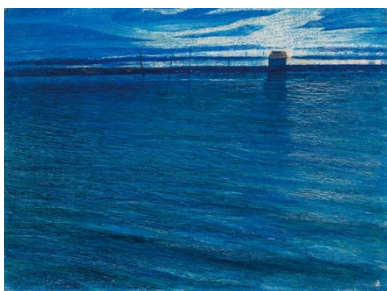
◆第二部 大牟田—江上茂雄の100年

○みどころ 独学の画家・江上茂雄の全貌を東京で初めて紹介

福岡・大牟田に暮らし、独学・独力で描くことを貫いた*江上茂雄（1912-2014）。鉛筆、水彩、クレパス・クレヨンなどの身近な画材を用いて、自身のそばにある風景と向き合い続けました。東京では初めての展示となる木版画や実験的な抽象画、染め紙といった多彩な取り組みを含む約400点により、その創作の軌跡をたどります。

*江上茂雄（えがみしげお）

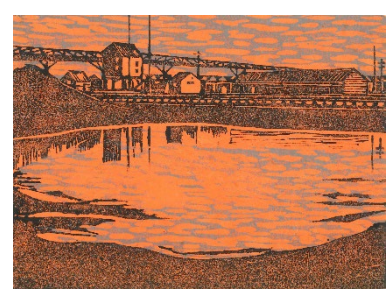
1912年福岡県山門郡瀬高町（現在のみやま市）に生まれ、間もなく大牟田市に転居。高等小学校卒業後、三井三池鉱業所建築課に入社。60歳で定年退職後、大牟田井筒屋で第一回個展開催。以後大牟田市ほかで計10回の個展を開催。2013年に田川市美術館、大牟田市立三池カルタ・歴史資料館、福岡県立美術館で江上茂雄展開催。2014年没。2018年に武蔵野市立吉祥寺美術館で「江上茂雄：風景日記」展開催。



江上茂雄《海のくもり日II》1960年頃
クレヨン 個人蔵



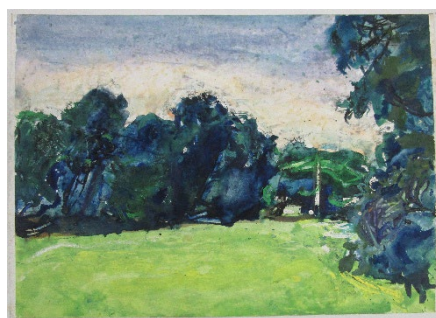
江上茂雄 制作年不詳 水彩 個人蔵



江上茂雄『大牟田五十景』より《貯炭場夕焼》
1972年発行 木版 個人蔵



江上茂雄 1987年12月 水彩 個人蔵



江上茂雄 1988年7月 水彩 個人蔵



江上茂雄『私の鎮魂花譜』より 制作年不詳
鉛筆、水彩 個人蔵

◆第三部 ブエノスアイレス—《百日草の庭》をめぐる100年

○みどころ 100年前に描かれた絵画に光を当てるリサーチ・プロジェクト

歴史に埋もれた個人の営みをすくい上げてきた*AHA!が、東京都（府）美術館の所蔵品第一号とされる絵画作品《百日草の庭》（1926年制作）を起点に、詳細不明であったこの絵の作者・「藤岡鉄太郎（かねたろう）」に関する調査を開始。そこで出会った同姓同名（同字異音）の藤岡鉄太郎（てつたろう）（1901-1982）に注目し、1927年に日本から地球のほぼ真裏に位置するアルゼンチン・ブエノスアイレスに渡り、造園・花卉産業に従事したこの人物のあとを追いかけます。これと並行して公募した花の写真を用いて、2027年の日めくりカレンダーを制作します。

*AHA! [Archive for Human Activities／人類の営みのためのアーカイブ]

NPO法人remoを母体として2005年に始動。記録集『はな子のいる風景』（2017）、ウェブサイト『世田谷クロニクル1936-83』（2019）、展覧会『わたしは思い出す』（2021）、など、市井の人びとの記録に着目したさまざまなメディアづくりを企画制作。



《百日草の庭》リサーチ・プロジェクト
資料：アルゼンチンの百合栽培施設内で撮影された藤岡鉄太郎と妹・房江の写真
1930年代頃 個人蔵



《百日草の庭》リサーチ・プロジェクト
資料：アルゼンチンで撮影された藤岡鉄太郎家族写真 1930年代 個人蔵



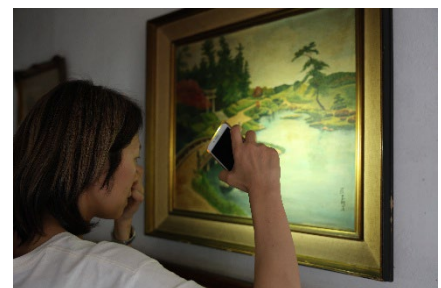
《百日草の庭》リサーチ・プロジェクト
撮影：松本篤（AHA!）



《百日草の庭》リサーチ・プロジェクト
撮影：松本篤（AHA!）



《百日草の庭》リサーチ・プロジェクト
撮影：松本篤（AHA!）



《百日草の庭》リサーチ・プロジェクト
撮影：松本篤（AHA!）

開催概要

- **展覧会名** 東京都美術館開館 100 周年記念 この場所の風景—上野・大牟田・ブエノスアイレス
 - **会期** 2026 年 7 月 23 日(木)～10 月 7 日(水)
 - **会場** 東京都美術館 ギャラリー A・B・C
 - **休室日** 月曜日 ※ただし 8 月 10 日(月)、9 月 21 日(月・祝)は開室
 - **開室時間** 9:30～17:30、金曜日は 9:30～20:00 *入室は閉室の 30 分前まで
 - **観覧料** 一般 1,200 円 / 65 歳以上 1,000 円 / 学生・18 歳以下無料
- ※同時期開催の特別展「大英博物館日本美術コレクション 百花繚乱～海を越えた江戸絵画」(東京都美術館)のチケット提示にて一般・65 歳以上の方は「100 円」(東京都美術館開館 100 周年記念料金)で観覧いただけます。
- ※身体障害者手帳・愛の手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳・被爆者健康手帳をお持ちの方とその介護者(1 名まで)は無料
- ※18 歳以下の方、大学生、高校生、専門学校生、65 歳以上の方、各種お手帳をお持ちの方は、いずれも証明できるものをご提示ください
- ※都内の小学・中学・高校生ならびにこれらに準ずる者とその引率の教員が学校教育活動として観覧するときは無料(事前申請が必要)
- **主催** 東京都美術館(公益財団法人東京都歴史文化財団)
 - **問合せ先** 東京都美術館 03-3823-6921
 - **公式サイト** <https://www.tobikan.jp/viewsofthisplace> ※最新情報は公式サイトをご覧ください

関連事業

【トーク・シリーズ】

会場：東京都美術館 講堂

※定員 200 名。

※事前申込制(8 月 6 日(木)12:00～、専用申込フォームにて受付開始予定)、先着順・定員に達し次第受付終了

※参加費無料。「この場所の風景」展当日チケットが必要。

※申込方法等詳細は公式サイトをご確認ください。

※情報保障あり。

①江上茂雄を語る

日程：8 月 29 日(土) 14:00～16:00

ゲスト：江上計太(美術家、江上茂雄 次男)×尾中俊介(グラフィック・デザイナー、本展グラフィック・デザイン担当)

本展(第二部)出品作家の江上茂雄の次男として福岡・大牟田に生まれ、東京藝術大学美術学部卒業後、現在は福岡を拠点に活動する美術家・江上計太氏と、『江上茂雄 作品集』(2010)刊行にたずさわったデザイナーの尾中俊介氏に、江上茂雄についてお話いただきます。

②名もなき誰かの足跡をたどる

日程：9 月 5 日(土) 14:00～16:00

ゲスト：清水チナツ(カルチュラル・ワーカー)×松本篤(AHA! 世話人)

在野の民話採訪者・小野和子氏の書籍編集やメキシコ民衆版画の研究等に取り組んできた清水チナツ氏と、本展(第三部)に《百日草の庭》リサーチ・プロジェクトで参加した AHA! の松本篤氏に、自身の活動がまなざしてきたものについてお話いただきます。

PRESS RELEASE

③戦中・戦後の女性の美術家たちを追いかける

日程：9月26日（土）14:00～16:00

ゲスト：吉良智子（近代日本美術史・ジェンダー史研究者）×正路佐知子（国立国際美術館 主任研究員）
本展（第一部）出品の女流美術家奉公隊《大東亜戦皇國婦女皆働之図》、戦後福岡の前衛美術家・田部光子（1933-2024）に関する調査・研究に、それぞれ継続的に取り組んできた吉良智子氏と正路佐知子氏に、戦中・戦後期の女性の美術家たちを追う中で見えてきたことについてお話いただきます。

【鑑賞プログラム】

①キッズ+U18デー 無料

日程：8月24日（月）10:00～15:00 ※入室は14:30まで

※事前申込不要。

※18歳以下の方とその保護者限定の無料開室日です。小学3年生以下は保護者同伴必須。

②ダイアログ・ナイト

日程：9月11日（金）／9月18日（金）18:45～19:15

東京都美術館で活動するアート・コミュニケータ（とびラー）と一緒に対話をしながら展示室をめぐる。
※定員各回16名。

※事前申込制（8月6日（木）12:00～、専用申込フォームにて受付開始予定）、先着順・定員に達し次第受付終了。
定員に達しない場合は当日受付あり。

※参加費無料。「この場所の風景」展当日チケットが必要。

※情報保障あり。

③担当学芸員と一緒に作品を鑑賞する会

日程：9月9日（水）／9月16日（水）11:00～12:00

本展担当学芸員と一緒に対話をしながら展示作品を鑑賞します。

※定員各回10名程度。

※事前申込制（8月6日（木）12:00～、専用申込フォームにて受付開始予定）、先着順・定員に達し次第受付終了。
定員に達しない場合は当日受付あり。

※参加費無料。「この場所の風景」展当日チケットが必要。

※情報保障あり。

展覧会をご紹介いただける場合は、下記の画像申請用 URL より、広報用画像をご活用ください。

広報用画像申請用 URL：<https://www.tobikan.jp/plate/24>

【注意事項】

- ・ 会期中に本展をご紹介いただける場合のみ、必要事項を記載の上、画像をダウンロードいただけます。
- ・ 作品クレジットを必ず入れてください。作品画像のトリミングや文字のせはできません。
- ・ 校正ゲラ等の確認が必要です。press@tobikan.jp に必ず**掲載前**にお送りください。

読者プレゼント

展覧会をご紹介いただける場合は、読者プレゼント用の無料観覧券（5組10名様）をお送りいたします。

「媒体名」「掲載時期」「送付先（郵便番号・住所・会社名・担当者名）」を press@tobikan.jp にお送りください。発送は5月以降を予定しております。

【報道関係のお問い合わせ先】 東京都美術館 広報担当 press@tobikan.jp 03-3823-6921